

## 山東盆地の風景を考えるワークショップの 第4回を開催しました！！

山東盆地の景観まちづくりをどのように進めていくか、  
について話し合う景観まちづくりワークショップの第4回  
を、11月8日（土）に伊太祁曽神社で開催しました。

今回は、これまでのワークショップで話し合ってきた山  
東盆地の風景の資源や課題をもとに、これから山東盆地の  
風景をどのようにしていきたいのか、その未来について話  
し合いました。



### ワークショップ

参加者が4つの班に分かれて、話し合いました。

#### A班

##### 【山東の風景と建物との調和】

- ・ 集落内の空き家を利用できたらよいが、集落の道が狭く、接道条件を満たしていないため、改築ができない。
- ・ 新しい家が増えて田んぼがなくなってきている。

（具体的な取り組み）

- ・ 既存の住宅でも改築できるような仕組みづくり。
- ・ 屋敷に木を植えるように決まりをつくる。

##### 【盆地の風景が山東らしさ】

- ・ 山東の風景の要は田んぼであり、残していきたい。
- ・ 山東の風景・色といえば緑。
- ・ 峠から見下ろした盆地の景観が山東らしさ。違うところへ入ってきたという印象を受ける。
- ・ 侵食する竹林の対策をとって、周囲の山を保全していく必要がある。

（具体的な取り組み）

- ・ 耕作放棄地をなくす仕組みづくり（担い手の斡旋など）。

##### 【人の交流が風景にもつながる】

- ・ 新しい人が集落になじみにくいのではないか。
- ・ 昔から住んでいる人と新しい人との交流をつくりだしていく。これは景観にもつながってくると思う。



## B班

【田んぼに囲まれ、自然や動植物が身近にある、そんな環境を守っていく】

- 和歌山市内で、鉄道も通っている便利な地域なのに、自然がこんなに豊か。
- 田んぼや四季の郷公園など、緑を印象づけるものであふれている。
- 貴志川線沿線の中でも、山東盆地内にはこれ以上家を増やさず、緑や農地を守るという大きな考え方もしたほうがいいのではないか。



⇒山や山林を守っていく。荒れているものを何とかする以外にも、予防策として、荒れそうなものをくい止める活動も必要（これ以上増やさない）。

【こどもがのびのび暮らせる、ゆったりした生活を大切にしていく】

- こどもが虫や川の生き物などに興味を持ち、のびのび成長できる素晴らしい環境。
- 昔にタイムスリップしたかのようなほほえましい風景をつくり出している。

【山東盆地の資源をつかって住民の愛着を育み、住む人が感じる幸せ度をアップする】

- 山東盆地のいいところ、歴史はまだまだある。例えば、小字やその由来など、土地の記憶や先人の知恵のようなもの。学校の先生も知らないのだから、再発見し受け継ぐ取り組みが必要。
- こういう身近な情報を受け継ぐことで、地域への愛着を高めていく。

【山東盆地を愛する人に、新しく住んでもらう】

- こんなに素晴らしい場所なのに比較的土地が安いから、そうと知らない人がどんどん家を建ててしまい、緑や良さがなくなっていってしまう。
  - 空き家があるのだから（田んぼをつぶすのではなく）空き家を活用して住んでほしい。
  - 新しく住んだ人にも、地域の行事に来てもらうなどして、地域に参加してもらいたい。
- ⇒魅力を共有し次の世代に受け継いでいく。

【次回引き続き話すこと】

- どういう情報発信をすれば、山東盆地を好きになってくれそうな人に届くのか？こんなにいい山東盆地を、どう印象付けていくか？
- ⇒四季の郷公園を中心に、色々な活動をしているのも、地域のPRの一環。景観を通じて、効果的なPRができないか？

## C班

【人が集まれる場所を創る】

- 山東は地域のことが好きで、愛着をもっている人が多いと思う。とても良いこと。
- 古民家に住んだりするには憧れはある。空き家が増えているが荒れていて、現実的には再生するのが難しいものが多い。ある程度行政の助けが必要となる部分もある。

- 大河内に倉庫を改築したカフェがあり、雰囲気がいい。こういう場所が他にもあればいいと思う。
- 外国人の観光客が多いが、和歌山市内にはゲストハウスがない。そういうものがあれば需要はあると思う。  
(具体的な取り組み)
  - 外の人、地域の人を集めるようなカフェのような場所をつくる。



#### 【営みを継続させる】

- 耕作放棄地が増えており、これ以上増やさないためにも何とかしないとイケない。
- 生業が続くことが大切。人の手が増えられていない、放置された竹林が多くなってきて、山が竹ばかりになっていくのは、景観としても問題だと思う。
- 竹は使い道がなく、昔は竹炭がはやったが、一時的なものだった。
- 最近では新たな人が入ってくる動きもあった。野菜づくりをしている人が多い。
- 放棄地にならず生業が継続していくことが大切であるため、新しい人たちによる新たな作物の栽培もあっていいと思う。
- 山東の名産を大切に、守っていききたい。  
(具体的な取り組み)
  - ボランティアの人に竹を刈ってもらおう。
  - 新しい人が住めるような移住の体制を整える。

#### 【豊かな自然・美しい環境を守る】

- 魚が住めるような美しい川にしたい。
- 集落を歩いていて、ごみが出っぱなしになっているのを見ると、よくないと思う。
- 山東駅の周りは、昔みかん畑ばかりだったが、少なくなっていった。  
(具体的な取り組み)
  - 住んでいる人それぞれが、ごみの出し方に気を遣う。

### D 班

#### ○風景を取り巻く状況

- 昔から積み上げられてきたものがあり、それを守っていく、大きな流れは変えられない(変えてはイケない)。
- 一方で現実を踏まえて考えないとイケない。人口が減っていく中で風景を維持出来るのかどうか。また、経済もグローバル化している。
- コミュニティや環境も変化し、昔のことを伝えていく人もいなくなっていく。住み続けることが難しくなっている。



### 【人のつながりが風景を創る】

- 風景は“人”が創るもの。
- 今の人たちがどういう風景を創っていくのか、を考える必要がある。
- その上で、「山東はこういう魅力があるんだ」ということをしっかり持たねばならない。
- “人”の“つながり”が 風景を未来につなげていく。
- 人の営みが表れたものが“景観”。営みが変わっていけば風景も良い方向に変わっていくことがあるかもしれない。
- 人の集まる場があれば、風景が自ずとできていくのではないか。地域にはボランティアや年輩の方なども一杯いる。
- 団塊ジュニア世代、さらにその子ども世代にどう伝えるか。

#### （具体的な取り組み）

- 地域の価値などを伝承していく、話し合っていく場が必要。自治会で懇談するような場があればよい。それ以外にも、不特定多数の人が集まっていく場が出来ないか。
- 風習を出来るだけ続けていく必要がある。初午のもちまきや講（様々な組織・集団のこと。ここでは村の寄合のようなもので、お寺に集まってお坊さんの話を聞いていた。）など。
- 体験型でいろんなことをやってみる場、見せていく場をつくる。自然の中で遊ばせるなど。

### 【風景の魅力に気づく】

- 見慣れている、何ともない風景を良いと思う人がいる。
- どうこじつける、料理するか、が大事で、要は持って行きようだと思ふ。例えばたま駅長も何の変哲もない猫だけど、ああいうふうに住立ると人気が出る。どこにでもあるものが特別になる。
- そういう目で見ると、山東の風景はまだまだ使い倒せるし、宣伝の余地がある。
- いつもの営みが、違う人が関わると価値になる。日常が非日常になる。
- 最近では香港から和歌山電鐵に乗って訪れる人が多い。そういった海外からの訪問者もターゲットになる時代。

#### （具体的な取り組み）

- 外からの視点で評価する「フォトコンテスト」を開催しては。季節毎にバリエーションを持たせてもいいし、昔の写真を題材にしても。審査員も地元の人がする。四季の郷公園を活用して展示するとか、各戸の軒先・庭先を活用する。その際に、地元のここにしかないものを食べられるところをつくっては。
- 今住んでいる人たちに魅力を知ってもらうことが大事。その方法を考えたい。
- 「この地区として、風景にはこういう考えを持っている」ということをまとめて、知ってもらうことが大事ではないか。

## 連絡

今回は、**12月6日(土)**を予定しています。今回は最終回で、山東をこういう風景にしたいという思いを実現させるためには、どういった取り組みが必要になってくるのかを話し合う予定です。

#### ●事務局・問い合わせ先

和歌山市 まちづくり局 都市計画部 都市整備課

〒640-8511 和歌山市七番丁 23 番地

Tel : 073-435-1082 Fax : 073-435-1367 E-mail : toshiseibi@city.wakayama.lg.jp